

# 《創世記 3章8節～24節》

◆ 読んで・聴いて 思い巡らそう

## 【メモ・Memo】

- 心に届いたみ言葉
- 教会に示されたこと
- 「悔い改め」
- 気づき
- 時代への呼びかけ
- イエスさまとの関連

## ◆ 聖書味読 翻訳の違い

## 創世記 3章8節～9節

●**新共** 8 その日、風の吹くころ、主なる神が園の中を歩く音が聞こえてきた。アダムと女が、主なる神の顔を避けて、園の木の間に隠れると、9 主なる神はアダムを呼ばれた。「どこにいるのか。」

●**聖書協会共同訳** 8 その日、風の吹く頃、彼らは、神である主が園の中を歩き回る音を聞いた。そこで人とその妻は、神である主の顔を避け、園の木の間に身を隠した。9 神である主は人に声をかけて言われた。「どこにいるのか。」

●**口語** 8 彼らは、日の涼しい風の吹くころ、園の中に主なる神の歩まれる音を聞いた。そこで、人とその妻とは主なる神の顔を避けて、園の木の間に身を隠した。9 主なる神は人に呼びかけて言われた、「あなたはどこにいるのか」。

●**岩波** 8 彼らは、その日の風の〔吹く〕ころ、園を往き来する神ヤハウエの〔足〕音を聞いた。人のその妻は園の木々の間に身を隠した。9 神ヤハウエは、人に呼びかけて言った、「あなたはどこにいるか」。

●**関根正雄** 8 夕方の風が吹く頃、彼らは園の中を散歩して居られるヤハウエ神<sup>かみ</sup>の足音を聞いた。そこで人とその妻とはヤハウエ神の顔を避けて園の樹の間に隠れたのであった。9 ヤハウエ神はその人に呼びかけて言われた、「君は<sup>どこ</sup>何処にいるのだ」。

●70人訳 (ギリシア語聖書の日本語訳) 8 二人は、主・神が夕方、園の中をあちこち歩く(足)音を聞いた。そこでアダムと彼の妻は、園の木の間に(身を隠し)主・神の顔を避けた。9 主・神はアダムに呼びかけて言った。「アダムよ、どこにいるのだ？」

●LB 8 その日の夕方のことです。神様が園の中を歩いておられる気配がしたので、二人はあわてて木陰に隠れました。9 神様の呼ぶ声が聞こえます。「アダム、なぜ隠れるのだ。」

●現代 8 夕方になり、彼らは、園の中で主である神の御声を聞いた。そこで彼らは、主である神の御前から逃げ出して、園の木の陰に隠れた。9 主である神は、男であるアダムに呼びかけて仰せられた。「あなたは今、正しいあり方をしているか」。

●フランシスコ会訳 8 いつものようにそよ風の吹き始めるころ、二人は園をそぞろ歩きされる神である主の足音を聞いた。人とその妻は神である主を避け、園の木の間に隠れた。9 神である主は人に声をかけて仰せになった、「お前はどこにいるのか」。

●新改訳 2017 8 そよ風の吹くころ、彼らは、神である主が園を歩き回られる音を聞いた。それで人とその妻は、神である主の御顔を避けて、園の木の間に身を隠した。9 神である主は、人に呼びかけ、彼に言われた。「あなたはどこにいるのか。」

●TEV 8 That evening they heard the Lord God walking in the garden, and they hid from him among the trees. 9 But the Lord God called out to the man, "Where are you?"

◆ **み言葉を生き み言葉を伝えるために**

- ① 主なる神のお心は、この場面、総合的にどのようなものであったのだろうか。
  
- ② 主なる神に「(あなたは) どこにいるのか。」と呼びかけられた「彼(アダム)」は、何と応えているだろう。
  
- ③ 11節の神の言葉「お前は裸であることを誰が告げたのか。取って食べるなど命じた木から食べたのか。」へのアダムの答えは、私たちに何を考えさせるのだろうか。
  
- ④ 「あなたがわたしと共にいてるようにして下さった女が、木から取って与えたので、食べました」に見え隠れすることの本質は何であるのか。
  
- ⑤ 女が「蛇がだましたので、食べてしまいました。」を皆さんはどう思われますか？

⑥ 墮罪の事実のあと、神が語りかけた順番を確認。

▼14節 まず、蛇

「這いまわり、塵を食らう」は最大の屈辱を意味する。

▼16節 次に、女

▼17節 最後に、アダム

⑦ 20節 アダムが女になしたこと それは「エバ(命)」と名付けることだった

エバはヘブル語で「ハヴァ」。「生きる」という語根から出ている。

⑧ 21節 「主なる神は、アダムと女に彼の衣を作って着せられた。」

▼関田寛雄先生の著書『あなたはどこにいるのか』より紹介

「はだか」であることができない人間に、神は自ら「皮の着物」を造り与えた。罪人としての人間の保持であり、承認である。神の言に背くことは罪である。

しかし背いて後、神を避けることはさらに大きな罪であり、神の提供する「着物」を拒否することは最も大きな罪である。神の恵みの決定に従い、「着物」を受けらるアダム。

．．．．．罪に破れた心と身を神自らにおおわれて、彼はエデンを離れた。かくてエデンは人間の起点であり、終点となり、歴史の始原と共に目標となった。楽園の記憶と希望を担って人間は、エデンからエデンに向かって生きる者となったのである。

## ⑨ 22節の解釈 フランシスコ会訳 註紹介

「人は善悪を知り、われわれのひとりのようになった」は、悪魔の偽りの約束の言葉（5節）を真似て、神が優しく皮肉を言ったものと、一般に解されている。

## ⑩ 23節「主なる神は、彼をエデンの園から追い出し」とある。そこは「東」の方向だった

## ⑪ 3章の最後・24節の 理解しやすい訳

## ▼関根訳 3章24節

神は人を追い払い、エデンの園の東にケルビムと自転する剣の炎とをおき、生命の樹への道を看守（みまも）らせることになった。

## ▼口語訳 3章24節

3:24 神は人を追い出し、エデンの園の東に、ケルビムと、回る炎のつるぎとを置いて、命の木の道を守らせられた。

以上